

■柴五郎
しばごろう
桜田門外変・1860＝
会津藩士柴佐多蔵の五男に生まれる。
生後まもなく出入りの足輕のもとに里子に出され、2年ほど過して生家に戻る。

生来、温和かつ伶俐であったが、

薩長同盟・・・1866＝6歳：「四書」「孝経」の素読の師につかされるも嫌で、午後の“遊”の組で発散、
大政奉還・・・1867＝7歳：藩校「日新館」に入学するも、
明治維新・・・1868＝8歳：戊辰戦争となり、壮絶な戦いの末落城、祖母・母・兄嫁・姉妹は自刃、父・兄らと東京に逃れるも、
戊辰戦争終・1869＝9歳：すぐに見つかる。会津藩は陸奥国斗南への転封の処分が決まり、
初の日刊新聞1870＝10歳：藩士らとともに、アメリカ汽船に乗せられ、下北半島の北端斗南へ移住。父も陸路で到着するが、嫡男長兄は未決囚のままその後も7年間各所に拘禁。田名部の寺に置かれた「日新館」に通うも相変わらず学校嫌い、
廃藩置県・・・1871＝11歳：藩の選抜で青森県庁の給仕となり、旧熊本藩士で有能な野田権大参事の家に寄寓したのが転機となる(後藤新平、斎藤実らも野田家の書生から出発)。上京の願望が強くなり、機会を窺っていたところ、
学問のすすめ1872＝12歳：大蔵省の役人が青森に downward してきたのを幸い、野田の許可も得られ、その帰京するも、尋ねる宛はなかったが、野田が紹介してくれた家々に寄寓させて貰ううち、
明治6年政変1873＝13歳：陸軍会計一等官になった野田が教えてくれた、給料まで貰える陸軍幼年学校ができることを知ると、早速願書を出してわか勉強、合格して入校。フランス式軍制のもと、授業は全てフランス語でついて行けず、成績は最下位、夏季休暇に特訓を受け、新学期で作文が褒められたのを機に、成績が向上し始め、
2年に進級すると、トップクラスになり、漢学者のもとにも通い始め、
佐賀の乱・・・1874＝14歳：その薫陶を受けて、愛国の志になって行く。
初の民間工場1875＝15歳：長兄によく判決が出、禁固百日の間、差し入れ等に追われ、
三つの反乱・1876＝16歳：兄四朗も出征した西南戦争のさなかに、長兄も出獄して出征、陸軍士官学校に進み、砲兵を志願、
西南戦争・・・1877＝17歳：兄四朗は東海散士の名で政治小説「佳人の奇遇」を書いてベストセラー、政界に一気に知られる。
大久保暗殺・1878＝18歳：兄四朗は東海散士の名で政治小説「佳人の奇遇」を書いてベストセラー、政界に一気に知られる。
琉球処分・・・1879＝19歳：兄四朗がハーバード大に留学。夏休みに会津若松に帰郷、9年ぶりに父に会う。陸軍砲兵少尉に任官され、
・・・1880＝20歳：(上原勇作・秋山好古らと同期で)士官学校を卒業。大陸での活躍を夢見て、熱心に中国語を学び始め、
明治14年政変1881＝21歳：父が死去。大阪鎮台山砲兵第4大隊小隊長に就任。
新体詩抄・・・1882＝22歳：これまでも随所で世話になった郷里の大先輩山川浩大佐が大阪工兵方面提理として赴任してきたのを機に、
山川家に寄寓させて貰い、人格形成の上で大きな影響を受けるとともに、
岩倉具視没・1883＝23歳：東京勤務の近衛砲兵大隊小隊長になり、度々明治天皇の乗馬のお供もするが、なお中国勤務を希望、
秩父事件・・・1884＝24歳：参謀本部出仕し、陸軍中尉に進級、シナ語教官の推薦もあって、ついに清国差遣を命ぜられ福州に赴任、
内閣発足・・・1885＝25歳：参謀本部出仕し、陸軍中尉に進級、シナ語教官の推薦もあって、ついに清国差遣を命ぜられ福州に赴任、
帝国大学始・1886＝26歳：福州でチフスに罹り、一命をとりとめると、諜報活動のため「廬山軒」を開業するが、
国民之友始・1887＝27歳：*北京駐在を命じられ、秘密裏に移動、苦行の末、北京に入る。満州を偵察し馬賊の役割などを確認。
初の対等条約1888＝28歳：偵察を兼ねて、陸路で朝鮮入り、苦難の縦断、釜山から船で帰国。近衛砲兵連隊小隊長に戻り、
帝国憲法発布1889＝29歳：陸軍砲兵射撃の学校を首席で卒業。陸軍大尉に進級し、近衛砲兵連隊中隊長に進む。
帝国議会始・1890＝30歳：陸軍省砲兵課員として不得手な役所勤め後、陸軍士官学校教官となる。
足尾鉋毒始・1891＝31歳：元老院議官までつとめた土佐の中村弘毅の遺児くまると結婚し、
大本教・・・1892＝32歳：長女みつが誕生するも、妻が死去。参謀本部第二局員となり、川上操六参謀次長に随行して清韓視察、
日清戦争始・1894＝34歳：イギリス公使館附心得となりロンドンに赴任、日清戦争勃発で帰朝。陸軍少佐に進級し、大本営参謀。
日清戦争終・1895＝35歳：日清戦争を勝利に導き、新設の台湾総督府陸軍参謀となる。北白川宮戦死後に帰国、明治天皇への単独御前講演の光栄に浴した後、朝鮮で起きた閔妃事件で兄四朗が逮捕されるなか、イギリス公使館附に戻り、
カナダ経由でロンドン渡り、ビクトリア女王即位60周年で祝祭記念章。
白馬会・・・1896＝36歳：勲五等瑞宝章。ベルリンで痔の手術を受けたついでにヨーロッパを巡遊、ロンドンに戻るや、
八幡製鉄始・1897＝37歳：米西戦争勃発、親戦の命令を受け、キューバへの上陸に同行、アメリカ留学中の秋山真之大尉に会い意気投合。サンチャゴ入城により、スペイン側からの攻防戦も調査。スペイン降伏後、ロンドンに戻る。
子規句歌革新1898＝38歳：参謀本部員を命ぜられ、帰国。鍋島直正の姪みつ改め花と再婚。陸軍中佐に進級し、
Bushidou・・・1899＝39歳：*清国公使館附を命ぜられる。義和団の乱が起こり、暴徒が各国の大使館を取り囲み、日本公使館書記生や
ヒアノ国産化・1900＝40歳：ドイツ公使が殺害される事態に、他国軍と協力、実質的司令官として、薨城戦を戦い抜き、総指揮したイギリスの駐清公使クロード・マクドナルドの推挙で、イギリスの武功勲章を授与され、フランスからも勲章を受ける。{タイムズ}の報道もあって、リュウトナンコロネル・シバの名が欧米で広く知られるに至った。
田中正造直訴1901＝41歳：日本兵の勇敢さと礼儀正しさに感銘したマクドナルド公使が、日英同盟を結ぶよう、首相ソールズベリーや日本公使林董を説得する間、帰国し天皇に御前報告。国内でも超有名人になり、功三級金鶏勲章を受章、
破格の参謀本部第4部長に挙げられるが、自らはそんなに凄くないと、望んで野砲兵第15連隊長に就任。
教科書疑獄・1902＝42歳：陸軍大佐。駐日公使に転じたマクドナルドの強力な推進で実現した日英同盟の締結後、エドワード七世の戴冠式があり、出席する小松宮親王の随員となって渡欧、その間、義和団の乱での功で、イタリア王国でサンモリスエラザル勲章コマンドール、オーストリア＝ハンガリー帝国で鉄冠第二等勲章、スペイン皇帝から武功赤十字二等勲章、ベルギー皇帝からも武功勲章、ロシアではニコライ二世からアンナ二等勲章、
最後に、大清帝国からも第二等第二竜宝星を授与されて帰国した。
日露戦争始・1904＝44歳：次女春子が誕生。日露戦争が始まると、なお野戦砲兵第15連隊長のままで出征、
日露戦争終・1905＝45歳：自らも至近弾を受けて負傷するなど、陸軍は大きな犠牲を払うが、海軍が日本海海戦を制して、勝利。
満鉄発足・・・1906＝46歳：*帰還し、凱旋式典で功二級金鶏勲章。日本を代表する武官として、またもイギリス大使館附に。
韓国反日暴動1907＝47歳：伏見宮親王のイギリス王室訪問の随員を務め、陸軍少将に進級、
アヲヲ創刊・1908＝48歳：エドワード七世から賓客として召され。ビクトリア二等勲章を授かり、敗戦国ロシア、日本が支配する満州・朝鮮と様変わりした地を経由して帰国。閑職とされていた佐世保要塞司令官になり、一家で赴任。
伊藤博文暗殺1909＝49歳：重砲兵第2旅団長となって下関に移り、
大逆事件判決1911＝51歳：辛亥革命の端緒が開かれると、身分は参謀本部附に移され清国上海に急行。帰国後、上野毛の新居に住み、任官して初めての病気となる坐骨神経痛で休暇の間、
明治天皇没・1912＝52歳：明治天皇が崩御。横須賀の重砲兵第1旅団長となり、
大正政変・・・1913＝53歳：中国の第二革命で、またも上海に急行し諜報活動。陸軍中將に進級するも、なお閑職の下関要塞司令官、
第一次大戦始1914＝54歳：親補職の小倉の第12師団長に栄転、ようやく落ち着いた生活、
民本主義・・・1916＝56歳：大北親兵式に参列、自らの馬“追風”が天皇の目にとまり献上するも、漢文、国語、習字がダメで冷や汗。
ロシア革命・1917＝57歳：勲一等瑞宝章を受け、
本格政党内閣1918＝58歳：親補職の東京衛戍総督に転じ、シベリアに派遣され、東伏見宮依仁親王のイギリス派遣に随行し、
ペルシ条約・1919＝59歳：家族全員がスペイン風邪に罹り、長女は九死に一生、次男が夭折という事態。アメリカ経由で帰国し、皇太子(昭和天皇)に御前報告。ついに陸軍大將に進級。台湾軍司令官に親補されるが、
軍事参議官となったが、
原敬首相暗殺1921＝61歳：兄四朗が死去。特命検閲使として長野に出張し、復命後、
水平社結成・1922＝62歳：長兄も死去。定年で、*予備役となり、
関東大震災・1923＝63歳：後備役に編入、
護憲三派圧勝1924＝64歳：残っていた姉が死去、
治安維持法・1925＝65歳：妻が死去、退役。
海軍軍縮条約1930＝70歳：
満州事変・・・1931＝71歳：
五一五事件・1932＝72歳：

この間、嗣養子、三兄が死去して兄弟を全て失い、4人の孫も次々死去という孤独のなかに晩年を送り、
日米開戦・・・1941＝81歳：日記の最後で、日米開戦に昂揚する気持ちを綴ったが、あとを託すべき人物全てを戦争で失うと、
敗戦・・・1945＝85歳：敗戦とともに、身辺整理を始め、9月15日に切腹を図るも果たせなかったが、その怪我がもとで没した。
インターネットWikipedia、村上兵衛「守城の人」、